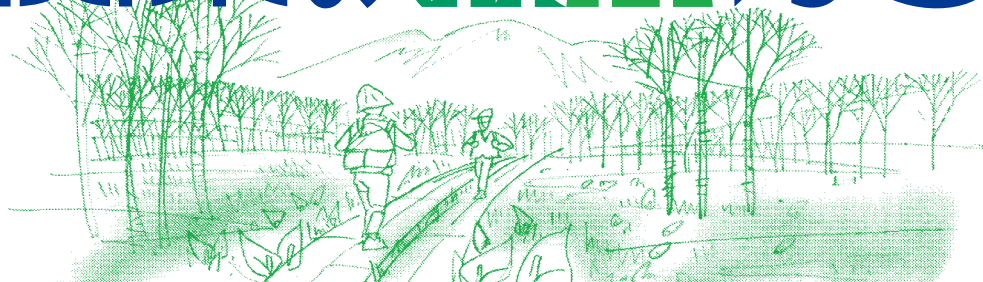


平成21年 2月 1日

第59号

関東の森林から



国民の森林・国有林

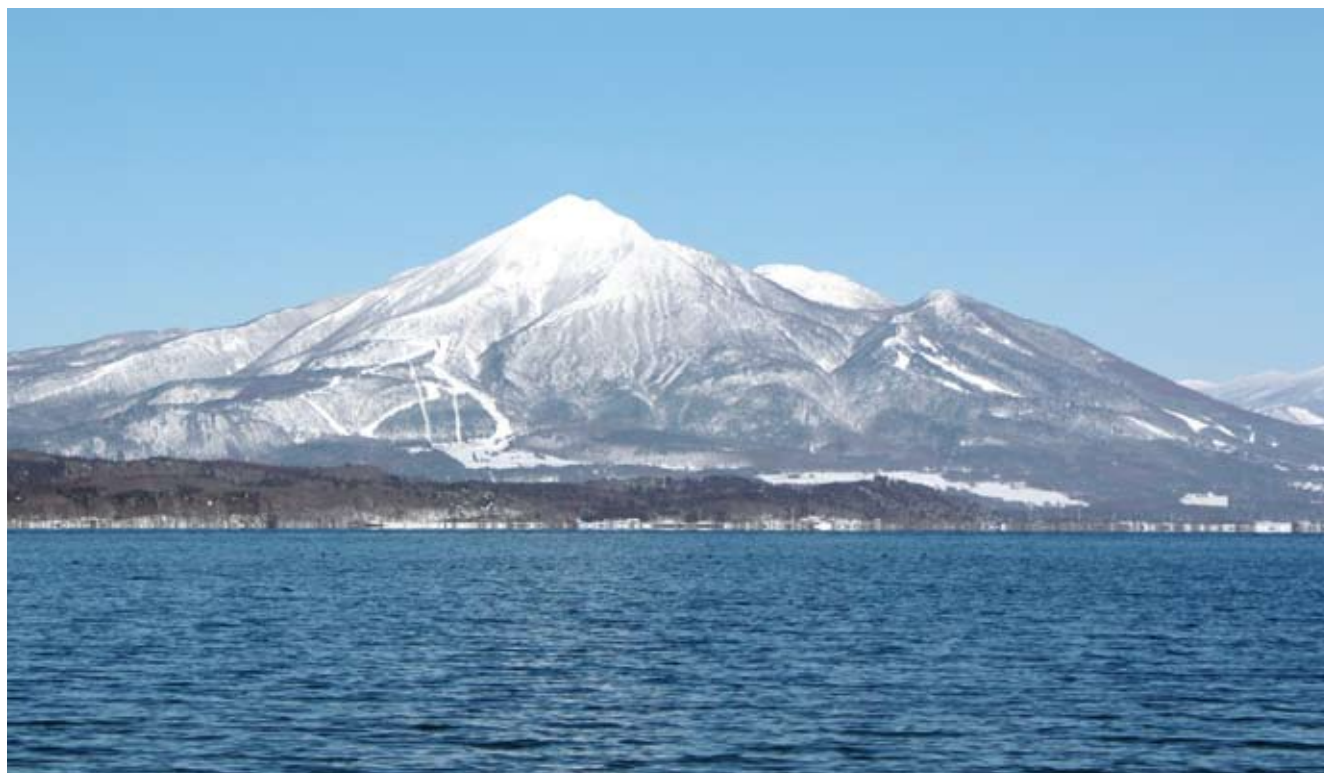
関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL (027)210-1158

FAX (027)210-1159

<http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/>



猪苗代湖と会津磐梯山（福島県猪苗代町）

（撮影：会津森林管理署 須藤秋夫）

美しい森林づくり

中越地区直轄地すべり防止事業の実施状況

治山課 課長補佐 神 林 弘 之

私の視点

ガールスカウトの森林づくりをして…

ガールスカウト日本連盟千葉県支部

千葉地区協議会 会長 堀 谷 陽 子 氏



広報「関東の森林から」は、日本の森林を育てるため間伐材を使用しています。

美しい森林づくり

中越地区直轄地すべり防止事業の実施

治山課 課長補佐 神林 弘之



平成16年に発生した新潟県中越地震により、長岡市、小千谷市等を中心とした民有地の山間地域で大規模な地すべりが多数発生し、集落、道路などに甚大な被害を与えました。

林野庁では、新潟県の要請を受けて被災地の早期復旧を図るため、平成17年度より「中越地区直轄地すべり防止事業」に着手することとし、関東森林管理局中越森林管理署が事業を実施

することとなりまとした。地すべりを防止するための工事は、地すべり地の地形を変化させた



横孔ボーリング排水工（風口地区）

（工）と、構造物により、地すべりの移動を直接抑えるための工事（抑止工）に大別されます。中越における抑止工としては、治山ダム工（地すべり斜面の末端部に設置し、地すべりの移動と不安定土砂の流出を防止）、排土工（地すべりの斜面頭部の土塊を除去することにより地すべりの滑動力を軽減）、押え盛土工（地すべり斜面の末端部に盛土をし、地すべりへの

り、地下水を排除する等により、地すべりの滑動力を軽減し、抵抗力を高める工事（抑制



集水井工（妙見地区）

抵抗力を増大して斜面を安定）、横孔ボーリング排水工（地上からボーリングし、浅い層にある地下水を排除）及び集水井（しゅうすいせい）工（井戸を掘り、そこからボーリングして深い層にある地下水を排除）等を実施しています。

抑止工としては、アンカー工（不動岩盤まで挿入した鋼材（より線）により、不動岩盤と地すべり土塊を連結して引張り力で斜面を安定）等を実施しています。全体計画は期間が10年間、事業費約162億円でスタートしたところですが、平成20

度までに、貫（つなぎ）地区（長岡市濁沢町）、呼坂地区（小千谷市小栗山）、浦ノ山地区（小千谷市浦柄）、滝之上地区



集水井内部

さらに、21年度には、風口・冷子沢地区も完成する予定です。今後は下屋敷地区（小千谷市小栗山）及び中つるめ地区（小千谷市ひ生）に随時着手して、早期に復旧していくこととしています。

今年度は当該地区の施工効果判定調査を行っており、この結果を受けて新潟県に移管する予定です。



アンカー工（呼坂地区）

（長岡市半蔵金）、風口地区（長岡市山古志種芋原）、妙見地区（長岡市妙見町）、樺ノ木地区、冷子沢地区（長岡市山古志

赤谷プロジェクト近況報告

「赤谷の日」の炭焼き



炭焼きの様子

平成17年度から実施している炭焼き体験を12月6日(土)、7日(日)の「赤谷の日」に赤谷プロジェクトの活動拠点「いきもの村」に設置してある炭窯において実施しました。

この炭焼き体験は、赤谷プロジェクトのテーマの一つである「伝統技術の継承」を目的として行っており、今回はサポーターが中心となり、地元の炭焼き名人の 笛木さん、林さんの助言を頂きながら、「いきもの村」に生えていたニセアカシアを利用して、炭焼きに併せて新たに木酢液の採取に挑戦しました。



木酢液の作成

炭焼き体験、出来上がった炭や木酢液については、サポーターの方々と相談しながら、環境教育、里山と人とのつながり、地元の人との交流のきっかけづくりなど赤谷プロジェクトの活動の中で活用していきたいと考えています。

自然環境モニタリング会議の開催

12月9日(月)に平成20年度第1回自然環境モニタリング会議が開催されました。この会議は、「赤谷の森」における植生管理や猛禽類の調査など多方面にわたる調査内容を統括し、赤谷プロジェクトの活動について科学的立場から助言していくために設置・開催されています。

今回は、科学的根拠に基づき生物多様性復元に取り組むため、平成16年度に策定された赤谷プロジェクト「自然環境モニタリング基本方針」の進捗状況と課題、次期地域管理経営計画への赤谷プロジェクトの成果の反映等について話し合われました。

その中で、「モニタリングが単なる生態調査に終わらないようモデル性を意識すべき。」また、「限られた人的資源や時間的制限の中で調査内容に優先順位をつけるべき。」「次期地域管理経営計画策定にあたって地域の方々への周知の手法についてよく検討すべき。」などの意見がありました。

特に、赤谷プロジェクトの成果をどのように次期地域管理経営計画に反映させていくかは、来年度にかけての重要な課題であり、引き続き議論を深め検討を進めたいと考えております。



亀山座長を囲んでの議論

千葉森林管理事務所との連携



高原千葉村での打合せ

千葉森林管理事務所とは上下流交流の取組の一環として、環境教育の分野で連携しており、毎年、千葉市内の中学生を対象に千葉森林管理事務所でも森林・林業に関する事前教育を行った後、「赤谷の森」で赤谷プロジェクトをテーマとした環境教育を行っています。

このため、12月15日(月)、16日(火)に千葉森林管理事務所担当者が赤谷プロジェクトの活動拠点である「いきもの村」等の視察や千葉市の施設「高原千葉村」で、千葉村担当者や赤谷センター職員と来年度の環境教育実施に関する打合せを行いました。

各署だより

日光署

列状間伐 現地検討会を開催

12月17日(水)、日光市の小倉山国有林において、栃木県、日光市、鹿沼市、佐野市、益子町、7林業事業体参加のもと、列状間伐現地検討会を開催しました。

現地は、41年生のスギ・ヒノキの人工林で、5m幅を伐採し10m幅を残す列状間伐の実施箇所です。検討会では、署から列状間伐の特



現地検討会

色について説明したのち、伐倒状況や伐採幅を利用して効率よく集材する様子を見学しました。

参加者からは、「若手で経験が少なくても、選木・伐倒・集材が効率的かつ安全に行える。」「シカ等の被害箇所では、列と併せて残存列の被害木も伐採する方法が良い。」「実施後の経過観察ができる場所が必要。」といった意見が出され、列状間伐についての理解を深めることが出来ました。

間伐を実施した小倉山は、日光市街地に近く、野鳥観察の場としても親しまれています。

署では、今回の箇所における広葉樹の更新状況について、定点観察を続けていくことで、列状間伐のモデルと併せて、混交林誘導のモデル林としても活用していきたいと考えています。(業務課長 益子好恵)

千葉所

自然素材で作る クリスマスリース

12月10日(水)から12日(金)の3日間にわたって、一般公募により、工作教室「第7回クリスマス☆リースづくりませんか」を当所にて開催しました。物作りに興味のある方、自然素材が好きな方が集まって、3日間を通して61名の参加がありました。

た。

このイベントは、森林から採ってきた様々な素材を使って工作することを通して、森林に親しみを持って頂くことを目的に実施しており、「毎年楽しみにしている」と言ってくださるリピーターも多く、当所の人気企画となっています。



賑やかに飾り付けられたリース

当所のリース工作は、アケビ等のつるをあらかじめ輪にしておいたリースの土台に、スギ、ヒノキの葉、マツボックリ、ドングリ等を手芸用ワイヤーとホットボンドを使って飾り付けていきます。

材料は職員が地道に集めてきたもので、「なかなか個人では集められない天然のものがたくさん揃っている」と参加者から大変好評です。

参加者の中には、「完成イメージが

湧かない」「ワイヤー止めが難しい」と苦戦している方もいましたが、3時間の製作時間が過ぎる頃には、それぞれ自分だけのリースを仕上げ、大満足の様子でした。

(指導普及担当主幹 大野亜樹子)

高尾センター

森林教室を開催

12月18日(木)、快晴のなか、今年度9校目の森林教室「炭焼き体験」を城山小学校で行いました。

城山小学校は昨年が続いての実施で、校庭の隅にブロックで固定した炭焼き窯(伏せ焼き)を作っており、事前に学校に行って炭窯のチェックと炭材(竹)作りの指導を行いました。

当日は、四年生100人が3班にわかれて、①炭材を詰める。②枯葉をかぶせる。③トタン板をかける。④土を被せる。と一連の作業をワイワイ言いながら楽しそうに取り組みました。

その後、焚き口から炎を窯の中に入れるために団扇であおぎましたが、これが大変!「一生懸命あおがないと窯の温度があがらないゾー!」とハッパをかけられながら、煙いなか必死になって奮戦していました。

午後は「炭の話」と「森林の育て



炭焼き体験をする小学生

方」についての講義を行いました。子どもたちは皆真剣に耳を傾けていました。

また、とれたての竹酢液を舐めてもらいましたが、ほとんどの子が「マズ！」というものでした。翌日には竹炭の窯出しを行い、土をどかしながら皆ドキドキ！出てきた炭を見て感動していました。

窯に水が入っていたり、一緒に作った花炭が燃えたりといった若干のトラブルもありましたが、無事終了することができました。

今年度は、あと4校で実施する予定となっています。

(広報連絡官 幾久正行)



雪のなか谷本先生の指導に聞きいる参加者

塩那署
ゴヨウツツジの保護活動

11月20日(木)、那須連山の大蔵山国有林にある中大倉山自然観察教育林において、ボランティアを募ってゴヨウツツジ群生地ゴヨウツツジぐんじの保護作業を行いました。

前日から降った20cmの積雪にもかかわらず、栃木県東北環境森林事務所や那須町・那須町観光協会の職員、宇都宮市や地元じもとの住民48名の参加がありました。

樹齢300年、3万本のゴヨウツツジ群生地は喬木のナラ、モミの成長によって被圧

され、林内が暗く、花芽の着きも悪く、立ち枯れも目立っていました。

当日は、宇都宮大学名誉教授の谷本先生の指導により、ゴヨウツツジを被圧している木や枯損木を伐倒し、歩道沿いの危険木の除去作業を行いました。

参加者のアンケートでは、「思ったよりも、立ち枯れしている木が多くてびっくりしました。」「谷本先生の専門的な知見を得ることができ有意義だった。」「このような企画を来年もぜひ開いてほしい。」など好評を得ました。

今後は、これまでの経過を踏まえ実行地を拡大して、作業のしやすい秋に計画したいと思います。

(流域管理調整官 藤原孝吉)



ゴヨウツツジ(シロヤシオツツジ) 開花期6月上旬



国有林モニターを募集しています

募集しています

国有林の管理経営に皆様の声を反映させていくため、意見や提言を伺ったり、アンケートにお答えいただく、平成21年度国有林モニターを募集します。

募集期間

平成21年1月15日(木)～

平成21年2月25日(水)

郵便はがきに必要事項を記入のうえ期間までに必着でお願いします。

必要事項

氏名(ふりがな)、性別、生年月日、年齢、住所(郵便番号)、電話番号、職業、モニターを知ったきっかけ、応募の理由(100字程度)

申込方法等の詳細については、関東森林管理局ホームページ(<http://www.kanto.kokuyuin.go.jp>)をご覧ください。

その他 お問い合わせ先

林野庁関東森林管理局

国有林モニター担当

(Tel 027-210-1150)

森林官からのおたより

上越森林管理署 高田森林事務所

森林官 栗本誠一

今回は、私が森林官を勤める高田、糸魚川両森林事務所を紹介します。

管轄する国有林は新潟県南部の上越市、糸魚川市、妙高市、十日町市松之山にあり、高田事務所に約8,000畝、糸魚川事務所に約16,000畝、2事務所合わせて約24,000畝の面積があります。

その多くが自然公園に指定されており、中部山岳・上信越という二つの国立公園のほか、国定公園が一つ、県立公園が三つあり、保安林率は約98%となっています。

特徴としては、局管内でも有数の豪雪地帯であることでしょうか。降雪量そのものも大変なものです。が、多くの場所が標高800メートル以上の高海拔地域に位置し、集落から離れているために除雪も入らず、例年11月下旬から5月下旬まで、年の半



米山山頂より頸城平野と日本海

ます。

さて、管内の最近の話題として、高田事務所では信越トレイルの全線開通が挙げられ

ブナの芽吹きは早い



分は雪に閉ざされてしまいます。その中には、さらに7月から10月までの4ヶ月しか道路が開通していない箇所もあり、年度始めから計画的に業務を進める必要があります。

また、海が近いためか雪質が重く、500畝足らずしかない人工林も毎年のように雪折れで間引かれ、残ったものも激しい根曲がりをおこしている、見るたびに心が痛みます。何とか雪の被害を減らせるような施策はないかと、頭を悩ませています。



ジオサイトのひとつ海谷溪谷

ある場所を複数もち、地域全体で教育や産業の振興のために活用している所が認定されるもので、同時に世界ジオパークへ

申請候補地にもなっています。ジオパークの中にはジオサイトという、特徴が観察できる箇所が設定されていて、国有林内にもジオサイトがいくつかあります。標高2,000メートルある鉱山跡や見事な断層が見られる溪谷など、対外的にはあまり知られてなかった箇所が、今後入込客の増加を通して、国有林が活用されることが望まれます。

高田、糸魚川の国有林は共に集落から離れたところにあり、これまで目立った事業も無かったことから、地域から忘れられた存在になっています。その中で少しでも国有林の存在をアピールすることが、森林官としての責務だと思っています。



北アルプスの北限、雪倉・朝日岳

私の視点

「ガールスカウトの森林づくりをこころで」

ガールスカウト日本連盟千葉県支部
千葉地区協議会 会長 堀谷 陽子



平成13年2月 地拵え

日、空気のこと、水のこと、そして私達の地球を次世代に引き継ぐために：具体的な活動として森づくりに取り組

ガールスカウトは「少女と若い女性が責任ある地球市民として自ら考え行動できる人となる」ことを目指して活動しています。様々な活動の中で自然に親しむプログラムとして夏期キャンプ、ハイキング、様々な野外活動等があります。そしてガールスカウト日本連盟は「チームマイナス6割」に参加しました。リサイクル、ゴミの減量化、環境に優しい洗剤作り、エコ運動等それぞれの地域性を生かし取組んでいるところです。私たちガールスカウト千葉地区は地球温暖化、環境問題など叫ばれている今



平成13年4月 ガールスカウトの森植樹祭・グリーンフェスティバル

むことになりました。応援してくださる方々のおかげで千葉森林管理事務所の所長様はじめ職員の皆様の温かいご指導を受けて皆伐された木更津市の国有林で森づくりが始まりました。平成13年2月、山の傾斜面の登り降りや冬場の悪天候などの自然条件と戦いながら不慣れな厳しい地拵え作業をクリアして4月、植樹祭をしました。山の上方にヤマザクラ、モミジなどの広葉樹

(7種類)を500本、下方にはスギの木を1,000本植えました。

春、夏、秋と下

草刈りや蜂誘引、名札付け、補植、歩道整備と毎回楽しみながら作業を続けて若い苗木を守りました。スギの木は5・6メートルの高さに伸びました。広葉樹はまだまだ下草刈りが必要のようです。

10月5日、「スカウトの森」にスカウト達がバス3台に乗ってやってきました。始めて参加する子、毎年参加している子では山の歩き方が違います。前回の6月は作業の途中で雨が降り、そのため今回は草丈が伸びて手応えのある作業になりました。昼食の後は森林教室です。森の紙芝居、火おこし、種

とばし、自然観察、ヒノキの丸太切り、それを紙ヤスリで磨き温度計を貼り可愛いクラフト作り、隣接するスギ林を借用して木と木にロープを結びロープ渡り、間伐されたスギの木を



平成20年10月 森の遊園地と手作り温度計



平成20年10月 下草刈り

自分たちができる自然を大切にすることを学んでいます。子ども達の未来のために、私達は千葉森林管理事務所のご指導を受けて、応援してくださる方々への感謝の心を忘れずに「スカウトの森」を守る作業を続けて参ります。

この「森づくり」を一年一年積み重ねていく中で、スカウト達は内容を深め経験豊かになりました。鎌、鉋、鋸等の道具の扱い方や安全についても体得し、さらに森の偉大な力、役割そして空気や水や地球のために

重ね交差させてシーズン遊びなど、自然の中で学びと遊びの恩恵を身体全体で受けとめて帰りました。

一枚の写真



赤崩から大井川を望む

大井川地区民有林直轄治山事業地は、糸魚川―静岡構造線と中央構造線に挟まれているため、地質が極めて脆弱であり、降水量が多いことから風化浸食が顕著で、当センターが把握しているだけでも2,000箇所以上の崩壊地があります。面積が約38㍎、平均幅300㍎、斜長1,000㍎、平均傾斜35度の大規模崩壊地である赤崩も、このような崩壊地の一つです。

この写真は平成20年10月に赤崩の最上部から崩壊地を撮影したものです。崩壊地の上部へ行くまでに3時間もかかり、秋だということにタオル

ではふき取れないほどの汗をかいてしまいました。その甲斐あつて迫力ある一枚をものにする事ができました。

写真上部には小さく赤い橋（畑薙橋）が見えますが、昭和57年8月に発生した台風10号による土石流でこの橋の先代が流出するという災害が発生しました。現在も事業地内の崩壊地からは土砂が流出し、赤崩からも流出した大量の土砂が大井川本流の河岸に堆積しています。

当事業地は、南アルプスの一角に所在しており、多くの登山者が訪れます。

サントリー株式会社と群馬森林管理署が「多様な活動推進の森」の協定を締結

洋酒、ビール、清涼飲料水の総合企業であるサントリー株式会社（本社・大阪市）と群馬森林管理署は、群馬県渋川市赤城町に所在する赤城山国有林の1,300㍎について、多様な活動推進の森とすることとし、昨年12月25日に関東森林管理局において協定を締結しました。

サントリー「天然水の森」赤城」と命名された赤城山西麓の広大なこの森林（皇居の約11倍の面積）は、同県内

内にあるサントリーの榛名工場（渋川市）と利根川ビール工場（千代田町）の上流部に位置し、両工場が消費する地下水以上の水量を育んでいます。

サントリーは、「天然水の森」において、地域と連携しながら、水源かん養林として高い機能を持つ森に育てるとともに、生物多様性を保全し、人々が自然と接することのできる森づくりやそのための調査・研究を行っています。



関東森林管理局で協定を締結したサントリー(株)鳥井副社長と中岡群馬署長

鳥井副社長と中岡群馬署長が協定書に署名、そのあと鳥井副社長から「古くから親しまれた赤城山で活動できるのは大きな喜びです。」小林局長から「将来の森林づくりのための重要な実験と考えています。」木暮治一渋川市長から「自然を大切にす市民の育成にはずみがつきます。」という主旨のあいさつがありました。

近いうちに、学識経験者、地元NPO、



締結式の様子

サントリー、群馬森林管理署、群馬県、渋川市、地元の学校などからなる「赤城100年の森づくり協議会」が設立され、具体的活動の企画、運営調整にあたることとなっています。

（群馬署 流域管理調整官 今井邦彦）

今年の6月には、大井川下流に富士山静岡空港が開港の予定であり、南アルプス観光の玄関口としての役割を担うことから、この赤崩をはじめとした大井川上流部の荒廃地の森林への復旧は地元からも期待されています。

（大井川治山センター 広報連絡官 坂賢）

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027) 210-1158
FAX (027) 210-1159

